

オキナワモズク浮流し養殖の予備試験

(中間報告)

瀬 底 正 武

現在各地域で実施されている養殖法は、①底層ヒビ建養殖と、②底層縄張り養殖である。いずれも礁瑚内のわりと浅い地先で養殖が行なわれているため降雨のたびごとに、赤土の流入や淡水の影響により何回となく被害を出している。特に本島中北部での赤土対策と並行して新しい養殖方法の開発が望まれたのでグループ課題として予備試験を実施した。尚試験は恩納漁協モズク養殖研究会と村役場の積極的な協力と連携により実施した。

1 養殖施設

施設は図-1.2.3に示されるように、フロートとロープを結着してイカダを作り（愛知県のアサクサノリの養殖例）その下に種網を吊り下げて養殖する方法である。ただし、浮流しの場合には種網は苗床で育苗して本張りできる大きさに生長した藻体を使用して実施する。採苗と同時に浮流しにセットすると生育が非常に悪いので注意する。

2 養殖状況

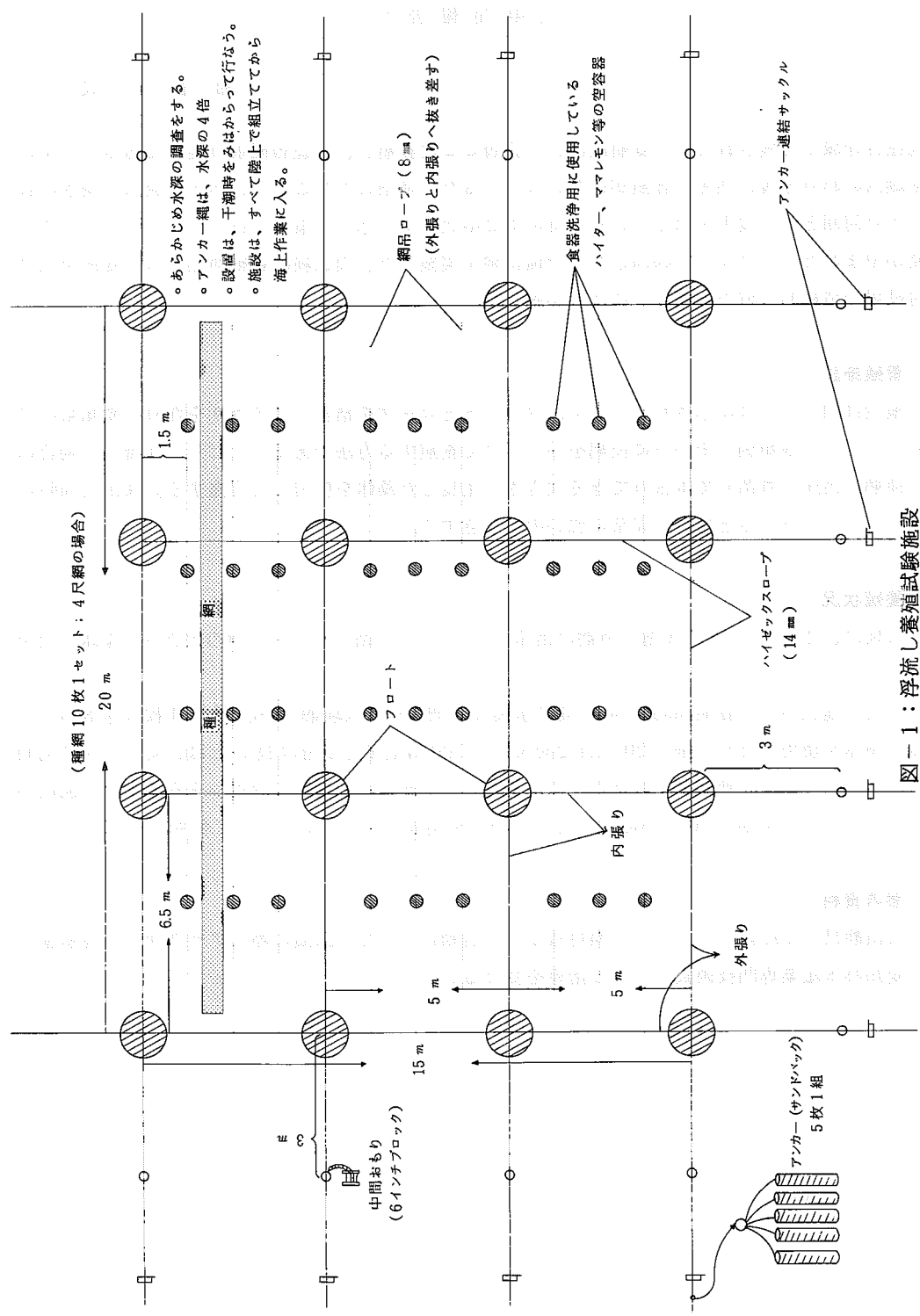
試験は、4月25日から実施し種網は苗床で50日以上育苗した3~4cmの大きさの藻体を使用した。

浮流し施設内での養殖期間は38日間で水揚高は網6枚（試験網10枚のうち4枚は芽落ちした衰弱藻体を使用したため垂下20日目で流失）で100kg前後と歩留は良いとは言えないが時期的に遅かったことや収穫がおくれたことによるものと推察され、養殖の過程からみて十分可能性があると考えられる。来期は50~100枚単位で浮流しを実施し生産収支についても明らかにしたい。

3 参考資料

岩田静昌（1974）；漁村青少年の活動についての講演に際しアサクサノリ養殖施設（愛知県水産業専門技術員）の指導を受ける。

養殖設備の浮流し装置の構造図



図一：浮流し養殖試験施設

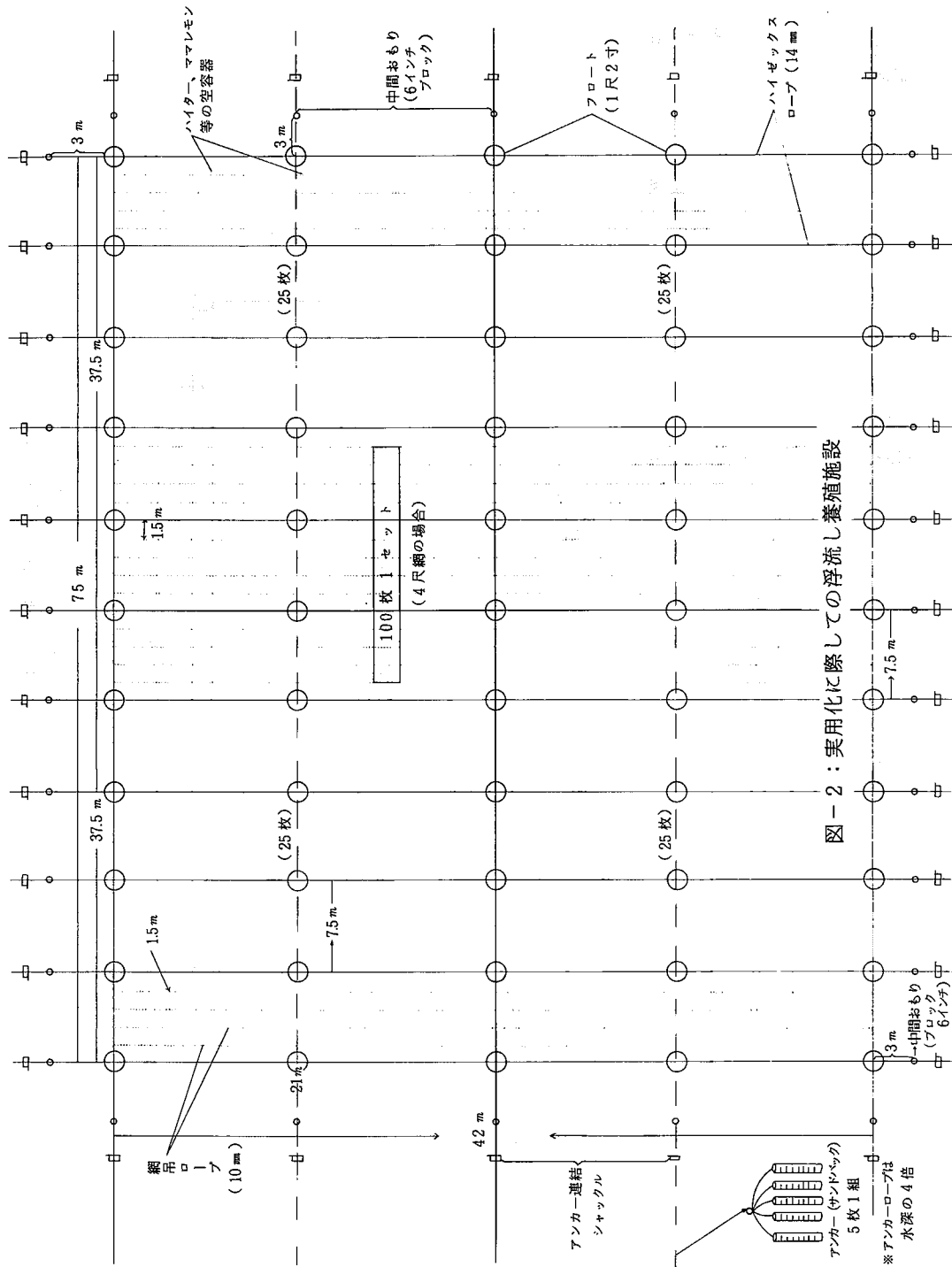
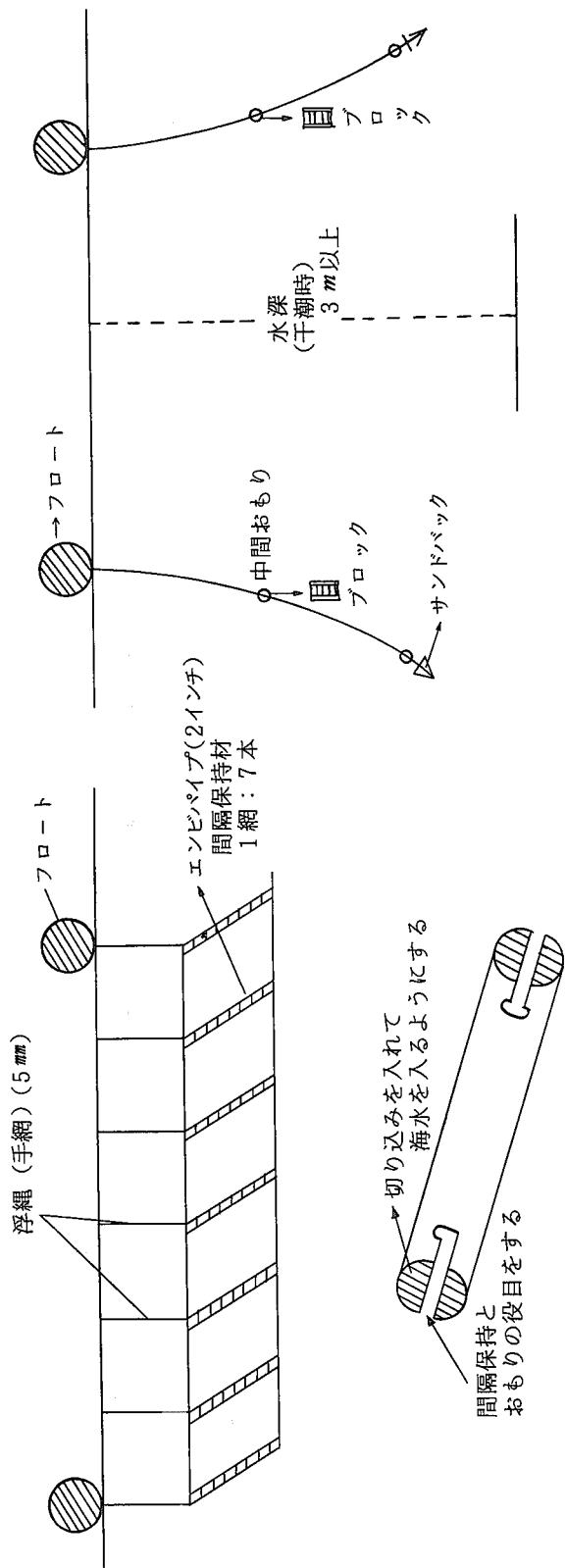


図-2：実用化に際しての浮流し養殖施設

アンカー-ロープは
水深の4倍



間隔保持材の大きさ及び切り込み方法
(エンビパイプ使用)

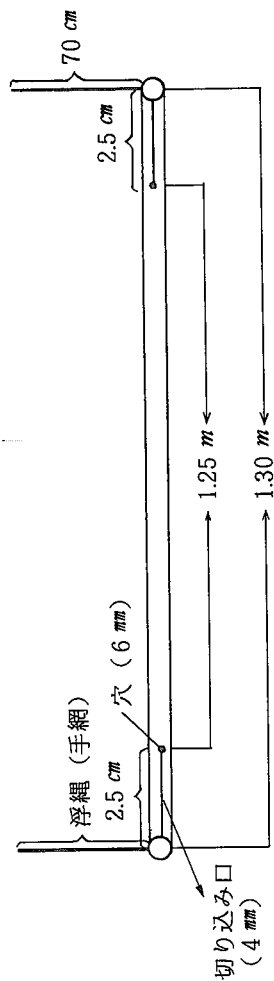


図-3; 外張り施設以外の付属資材
(※図-1の試験施設の場合も付属資材は同じ)

表-1：網100枚についての浮流し施設資材費
 (4尺網使用の場合)

品名	規格	数量	単価(円)	金額(円)
フロート	1尺2寸	55個	2,000	110,000
ダイヤGGロープ	14mm×200m	7巻	9,800	68,600
”	10mm×200m	11巻	3,600	39,600
”	5mm×200m	5巻	1,380	6,900
”	4mm×200m	3巻	850	2,550
砂袋(大)		155枚	170	26,350
エンビパイプ(厚)	2インチ×4m	250本	1,440	360,000
シャックル	12mm	31個	52	1,612
ブロック	6インチ	31個	95	2,945
合計				618,557